# 「東京おひさまベリー」 栽培マニュアル

〈暫定版〉



東京都農林総合研究センター 園芸技術科野菜研究チーム

# 1.「東京おひさまベリー」の特長

#### 品種特性

- 露地栽培用の主要品種の「宝交早生」と比べて
  - ●草勢が強く、草丈が高い
  - ●開花始めは早いが、収穫開始が1週間ほど遅い
  - 収量は同程度だが、大きい果実の割合が多い
  - 果実はきれいな鮮紅色でやや硬く、内部まで赤い
  - ●甘味と酸味が強く、独特の香りがあり、食味良好
  - ●萎黄病の耐病性は「宝交早生 | 程度 = 弱い
  - ●炭疽病には「宝交早生」より弱い(罹病性)



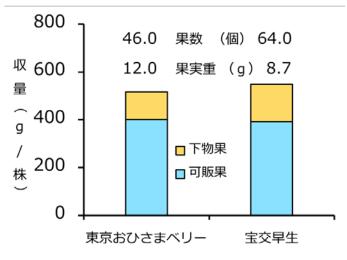




表 果実品質(2013~2015年)

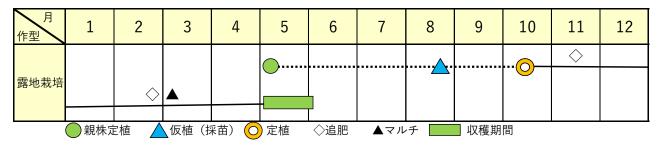
口括	硬度 a	糖度 酸度		エぃb	
品種	(kg)	(%)	(%)	香り <sup>b</sup>	
東京おひさまベリー	0.37	8.7	0.61	3.1	
宝交早生	0.31	8.4	0.51	2.6	

- a) 果実硬度計(円錐型Φ12mm)の陥入抵抗値
- b) アンケート調査:無(0)~強(4)

## 2.栽培技術

#### ① 栽培歴

露地イチゴの栽培歴例



「東京おひさまベリー」は露地で保温を行わず に栽培し、わき芽も利用して春~初夏に収穫する

#### ② 土壌条件

- 土壌は選ばないが、通気性や排水性がよい圃場 (pH:5.5~6.0、EC:0.5mS/cm程度)
- ●連作を避けて、萎黄病や センチュウなど土壌病害 虫が発生していない圃場
- ●発生している場合は必ず 土壌消毒を行う



萎黄病

#### 表1 主な土壌消毒の方法

主な消毒方法	特徴
土壌消毒剤	クロルピクリン、D一D、ダゾメットなどの薬剤を土壌に注入または混和し、表面をフィルムなどで被覆して土壌中でガス化させて土壌病害虫を防除する。
太陽熱消毒	土壌に十分な水分を与え、フィルムなどで被覆して太陽光を当て、地温を上げて 土壌病害虫を防除する。
土壌還元消毒	土壌に米ぬかやフスマなどの有機物と水を添加し、フィルムなどで被覆して太陽 光を当て、微生物を急激に増殖させ還元状態することで土壌病害虫を防除する。
蒸気・熱水消毒	専用のボイラーで蒸気や熱水を作り、土壌に注入し土壌中の温度を上昇させて土 壌病害虫を防除する。

#### ② 定植準備(施肥)

- ●土壌診断を行ない、ECやpHの値から圃場の 状態を把握し、施用量を加減する
- ●基肥は、10aあたり堆肥2 t 、窒素成分で10kg 程度を緩効性肥料や有機質肥料を主体に施用する
- ●窒素が効き過ぎると、過繁茂になり先青果が発生しやすくなる
- ●追肥が効き過ぎると、チップバーンが発生する ことがある







先青果

チップバーン (葉)

チップバーン (がく)

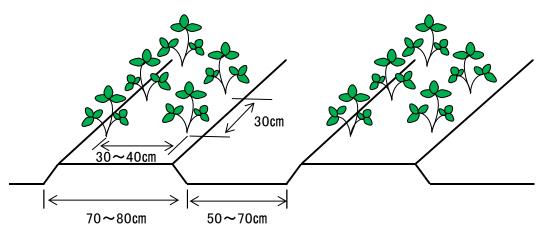
表 イチゴの施肥例(10 a 当たり)

	資材・肥料	施肥量	成分量(kg)		g)	備考
	更们 · 加州	(kg)	窒素	リン酸	カリ	)用 <i>气</i>
	木質牛ふん堆肥	2000				
	苦土石灰	200				黒ボク土 pH5.8の場合
基肥	化成8号(8-8-8)	50	4.0	4.0	4.0	
	有機配合(8-8-8)	50	4.0	4.0	4.0	
	重焼燐2号(0-35-0)	50		17.5		沖積土場合 8割
追肥	NK化成2号(16-0-16)	25	4.0		4.0	1回目 11月中旬頃
	NK化成2号(16-0-16)	25	4.0		4.0	2回目 2下旬
	合計		16.0	25.5	16.0	

東京都施肥基準参照(対象品種:「宝交早生、東京おひさまベリー」)

#### ③ 定植

- ●定植時期は10月中旬以降(花芽分化10月上旬頃)
- 幅70~80cmのベッド(通路50~70cm)を作り、 株間30cmの2条千鳥で植え付ける
  - ●ランナー(分かれば)をベッドの内側に向ける (収穫時の果房が通路方向に出る)



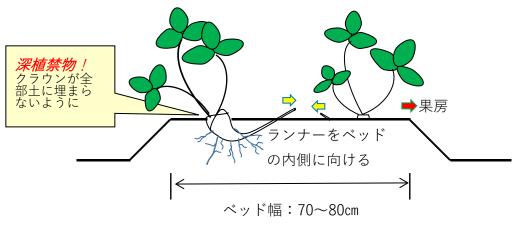
露地栽培のベッド作り、栽植距離の例

- ★購入苗を利用
- 9~10月頃に7.5cm

ポットで届く

・定植までに十分に 根鉢を形成させる





イチゴの植え付け方

- ●クラウン部が土に埋まらないように覆土をして (浅植)、十分に灌水する
- ●定植時期が遅くなると年内の生育がわるくなる (できるだけ10月中に定植するのが望ましい)







定植作業

ランナーの向き

植え付けの深さ

#### ④ 定植後の管理

#### (1) 追肥

- ●追肥は11月中~下旬と2月中~下旬の2回を行う
- 追肥には即効性の高度化成が適している
- 窒素成分で 4 kg/10 a をベッドの中央と肩の部分 にまく
- ●2回目はマルチ敷設前に行い、できればマルチまでにひと雨当てたい



追肥作業



ベッド中央部の追肥

#### (2) 葉掻き

枯葉や黄化葉、凍霜害花、 障害果を適宜取り除く (灰色カビ病の原因)





### (3)マルチ

- 2回目の追肥後頃に黒色または透明のマルチを敷設する
- ●新芽が少し伸び始めた2月下旬~3月上旬頃、 できれば追肥後にひと雨当てたい
- ●マルチを張る前に枯葉や凍霜害花、雑草などを取り除く
  - マルチを株の上から張り、切って取り出す (このとき葉を折らないように気を付ける)



マルチ敷設①



マルチ敷設②



株の取り出し



刃物でマルチを切る



穴を広げる



株を取り出す

#### (4)通路被覆(敷きわら)

●マルチ敷設後、花が上がってきたら、通路にわら や透水性のシートを敷く



敷きわら



透水性シート

#### (5)防鳥網

●収穫が始まる(果実が着色する)までに防鳥網を 張る



防鳥網



防鳥網 (トンネル)

- ●できれば人が入れるくらい高く網を張ると(写真左)収穫時の作業性がよくなる
  - 無理な場合はトンネル(写真右)でもよい
- ●網の端はしっかりと固定する(鳥だけでなくタヌ キやハクビシンが網の隙間から侵入する)

#### (6)病害虫防除

- ●病気や害虫が増える前に薬剤による予防に努める (収穫期はなるべく薬剤散布を控える)
- イチゴの露地栽培で多い病害虫とその農薬
  - ★ 灰色かび病 密植を避け、風通し をよくする 枯れ葉、下葉などを 小まめに除去
    - セイビアー顆水
    - ・ピクシオDF
  - ★ アブラムシ よく観察し、増え すぎる前に防除
    - ・ウララDF
    - ・チェス顆水
- ★ ハダニ葉裏に多い風通しよくする
  - ・ダニサラバFL
  - ・コロマイト水













略称 顆水:顆粒水和剤、水:水和剤、DF:ドライフロアブル

- 耕種的防除
  - ●マルチ敷設、通路にわらや透水性のシートを敷く
- ●枯れ葉、黄化葉、凍霜害花、障害果などを適宜取 り除く

#### ⑤ 収穫

- ●開花から収穫までの成熟日数は43日程度で,34日の「宝交早生」より約7~10日長い
- ●「宝交早生」より硬いが、促成用品種に比べて軟らかく、軟化しやすいので取り遅れに注意する
- ●採れ始めの果実はかなり大きいが、後半は小さい 果実が多くなる
- 着色程度と品質 (収穫の目安:参考)
  - ◆着色開始から3日目で 100%着色する
- ◆着色が進むにつれて軟 らかくなる(とくに果皮)
  - ◆着色が進むにつれて

糖度: やや増加

酸度:減少

◆追熟した場合

(30~90% → 100%) 100%収穫と比較して

硬度:高い

糖度:あまり変わらず

酸度:高い



果実の着色程度

着色が進んでいない果実を若採りして追熟した場合、 完熟果(100%着色収穫)に比べて、硬くて酸っぱい果 実になる

# 3.最後に

- ●今回の暫定版は、購入苗の利用を前提とし、育苗 については省略してある
- ●育苗については、「東京おひさまベリー」が炭疽病に罹病性のため、仮植時期が高温期にあたるので育苗は「宝交早生」より炭疽病対策が必要である
- ●育苗方法については、炭疽病対策を含め今後検討し、よりよい方法をマニュアルに追加していく
- ●収穫の目安は、本マニュアルに載せるべく本年度 試験を行ったが、データ不足なので参考とした
- ●収穫についても、今後も試験を重ね、用途別など に収穫方法をマニュアルで提示してきたい
- ●暫定版でまだ不十分なところもあるが、「東京おひさまベリー」の栽培で参考にしていただきたい